

# 令和4年2定 一般質問 開催状況

開催年月日 令和4年6月22日

質問者 日本共産党 菊地 葉子 議員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質問要旨	答弁要旨
<p><b>七 地方交通について</b></p> <p><b>(一) 北海道新幹線札幌延伸に伴うバス転換について</b></p> <p>北海道新幹線札幌延伸に伴い、並行在来線函館線は、小樽から長万部までの路線について、3月27日の対策協議会後志ブロック会議において、バス転換との方向が示されました。しかし、この決定は沿線自治体首長の合意であり、住民からは協議会の中で存続の方法が十分に検討されたとは言えず、住民合意が尽くされているわけではない、白紙撤回せよとの声大きいのが現状です。</p> <p>今月9日、JR函館本線の存続を求める住民の会は、後志振興局に協議会決定は同意できない旨の住民の思いを強く訴えました。</p> <p>函館線は、災害・食料・経済・観光などのあらゆる面で北海道の大動脈としての役割を担ってきました。全国的に例のない140.2kmの長距離に及ぶ鉄道を廃止することで、国家100年の大計を誤ることにならないよう、バス転換は再考すべきではありませんか伺います。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>全線バス方式は地域の判断と言いますが、鉄道存続を望めば巨額な財政負担が自治体に求められ、鉄道維持の不採算性が先行し、結果としてバス転換を住民に迫った議論が進められたという認識が知事にはありますか。</p> <p>列車通学していた生徒の「当たり前がなくなって心にぽっかり穴が空いた気持ち」等の思いがどこまで伝わった協議会議論だったのでしょうか。</p> <p>バスに転換したとして採算性や運転手不足等で運行路線が縮小されている中では、地域住民の足の確保が将来にわたって保証されるものではありません。鉄道存続に向けた議論はまだ必要であることを指摘します。</p>	<p><b>【交通企画監】</b></p> <p>北海道新幹線札幌延伸に伴う対応についてでございますが、函館線の「長万部・小樽間」は、通勤や通学、観光振興など、地域の皆様にとって、大きな役割を担っているものとの認識の下、経営分離後の地域交通の確保方策の検討にあたりましては、線区の特徴や地域の実情などを十分考慮した上で、協議を行ってきたところでございます。</p> <p>こうした経過を踏まえ、沿線自治体の皆様におかれましては、今後の後志地域全体の将来を見据え、住民の皆様のご利便性の確保はもとより、様々な観点から地域における議論を重ねてきた上で、協議会として、本年3月のブロック会議におきまして、「長万部・小樽間」の全線を「バス方式」とすることを確認したところでございます。</p> <p>道といたしましては、この度の地域の判断を重く受け止め、バスによる交通体系の構築にあたり、沿線自治体の皆様や交通事業者のお考えを丁寧に伺うとともに、今後の新幹線の新駅設置や高規格道路の延伸などといった後志地域を取り巻く交通環境の変化を見据えながら、利用者ニーズの対応ができる新たな交通体系となりますよう、協議を進めてまいります。</p>